青少年育成センターだより

第２３３号　２０２６．９．１

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

０８３５－２４－３２３２

困難に打ち勝って疲れず　～こどもたちに「乗り越える力」を～

「困難に打ち勝って疲れず」これは、幼児教育学者として有名な倉橋惣三さん(1882 年～19５５年)の言葉です。倉橋さんは今から約１００年前の大正時代末期に「現代社会はいかなる人間を必要としているか」という論文を書きました。当時は、時代が大正から昭和へと変わる激動の社会でしたが、倉橋さんはその答えとして、先の言葉を残しました。現代社会は何よりも「神経が健全で強健な子ども、**困難に打ち勝って疲れず**、所信と使命を実行し得る人間」を必要としていると論じたのです。今風の言葉に言い換えると、「いかなる困難に出会っても立ち向かっていくたくましい心と体をもった人間」ということでしょうか。

さて、時代が移り変わって今は令和の時代。私は、１００年前に倉橋さんが提唱されたこの**「困難に打ち勝って疲れず」**の精神は、令和の今の時代であっても求められる精神ではないかと思っています。

ところで、私は「今のこどもたちに最も必要な力は何か」と問われたら、それは「乗り越える力」であると答えたいと思います。この「乗り越える力」とは、言い換えれば「困難に出会ってもへこたれない勇気とたくましさ」です。

こどもたち(大人もそうですが)が生きていくこれからの社会は、さまざまな困難が待ち受けています。一番身近なことは、勉強が「わかる」「わからない」、スポーツが「できる」「できない」など、日常の生活の中で「困難なこと」にたくさん出会います。そんな時、自分にはできないことだからと簡単にあきらめてしまってはもうそこで終わりです。こどもたちが、さまざまな困難(障害物)に出会っても、「なにくそ、負けてたまるか」という強い気持ちで立ち向かってこそ、その困難(障害物)は乗り越えられるのです。

しかし、残念なことに、こどもたちが、さまざまな困難(障害物)に出会ったときに、周りの大人がそれを取り除いてやったり、ハードルを低くしてやったりして簡単に乗り越えられるようにお膳立てをしてやっているのではないでしょうか。そうすると、一度目はうまくいっても、次に高い大きなハードルに出会ったら、もう自分の力では乗り越えられずギブアップしてしまうのです。

例えば、友だち同士の人間関係のトラブルもそうですね。上手に大人がアドバイスをしてやりながら、実際はこどもたちが自分たちの力で解決して人間関係を築いていくという力も「乗り越える力」の一つでしょう。

私は、これからの社会を生き抜いていくこどもたちに必要な「乗り越える力」を、小・中学生の義務教育の時代にしっかりと培っていくことが大切であると思っています。そのためには、学校の教育活動のあらゆる場面をとらえて、たくさんの困難を用意し、それに立ち向かっていくチャレンジの機会を与えていくことが必要です。幸いなことに、市内のすべての小・中学校は、コミュニティ・スクールとして保護者や地域のみなさんのご支援とご協力をいただきながら教育活動を推進しています。

これからも学校、保護者、地域が三位一体となって、こどもたちに「乗り越える力」(困難に打ち勝って疲れずの精神)を培っていかれることを心から願っています。

文責＝青少年育成センター指導員　大本